

## 「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2017 年度分）

2017 年 11 月 21 日

計画研究班名：A01-1

申請者氏名・所属・職名：川口悠介・東京大学大気海洋研究所・助教

申請者連絡先 電話・メール：04-7136-6047, ykawaguchi@aori.u-tokyo.ac.jp

対象者氏名・所属・職名：同上

相手氏名・所属・職名：Benjamin Rabe, Alfred Wegennar Institution, Researcher

相手連絡先 住所・電話・メール：Benjamin.Rabe@awi.de

申請項目（複数可、数字を記入）：1&7

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：MOSAiC implementation workshopへの参加と北極海の海洋乱流観測に関する研究動向

成果報告要旨：

（A4 数枚以上図表・写真等を含む研究成果報告詳細版を別ファイルで添付すること）

2017 年 11 月 12-17 日にかけて、ロシア連邦極地研究所（AARI; Arctic and Antarctic Research Institute）に滞在し、2019-2020 年に計画されている MOSAiC 観測プロジェクト（Multidisciplinary dirfting Observatory for the Study if Arctic Climate）での観測内容とロジスティックについての現状報告と今後の打ち合わせを行った。海氷域における通年観測の概要と実行プランについて申請者から提案するとともに、各チーム（ICE, OCEAN, Biogeochemistry, Ecosystem, etc.）ごとのプランを整理・総括することで有益な情報交換の機会を得ることができた。特に、砕氷船（IB Polarstern）の運行を担うドイツ・Alfred Wegennar Institution (AWI)とロシア・Arctic & Antarctic Research Institute (AARI)とは、輸送船の運航計画やヘリコプターのオペレーションの条件などについて綿密な打ち合わせができた。

全体計画・計画研究への寄与：

本会議で議論された高緯度海域(北極海)での乱流観測の手法や研究計画について、今後 A01-1 班やその他の班と 共同で行う観測計画の立案や観測結果の解釈において参考にしたいと考えている。海氷下の成層安定度は、海氷の流動性と海氷からの塩分(浮力)フラックスの季節性によって大きく変化することが一つの話題として提供されていた。共通の問題は、北極海以外にも幅広い領域で起こり得る現象であり、観測やモデル実験を通して今後の実態解明につなげていきたい。

制度の改善点・感想等：

国立極地研究所の猪上淳 准教授と北海道大学水産学部の野村大樹 助教には、MOSAic および当該実行会議への参加に関する諸手続きからロジスティックまで大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

実際の日程：

2017 年

11 月 12 日：成田発・モスクワ経由・サンクトペテルブルク着

11 月 13 - 16 日：AARI にて MOSAic 会議に参加

11 月 17 日：サンクトペテルブルク発およびモスクワ経由・成田着

¥

使用した予算内訳(旅費とその他の経費に分けて記述)：